

## 数字で未来をデザインする、「社会起業家で実務家」へ。 日本全国、世界とつなぐことで、更に地域の豊かさを実現



### 定居 照能 (さだい てるよし) さん

Sophia Bliss (株) 最高執行責任者、北海道イノベティブ・デザイン経営研究協議会 (HIDERA) 共同設立者

1973年札幌生まれ。北海道大学卒業後、総合商社で香港駐在中にアジア通貨危機を経験。帰国後、米国公認会計士合格を機にアクセンチュアに転職し、日本財務統括に就く。その後、GEでアジア事業部CFOなどを歴任し、2015年に東川町へ移住。

GE時代の同僚家族が東川を訪ねてくれ、一緒に訪れた旭岳 (2019年)

北海道に移住 (U・I・Jターン) して、新たな取り組みをする輝く人を紹介するインタビュー。お話を伺うのは、北海道各地を探訪し想いを形にする人との出会いをつなぐ、地域プロデューサーのかとうけいこさん。13回目となる今回は、地域の価値創造をデザインし、グローバルの時代に持続可能な豊かさを実現することを目標に行動する、東川町の定居照能さんです。

### 移住早々に、デジタル地域通貨HUCを立ち上げられましたね

グローバル企業での経験を日本企業・日本社会の価値創造に活かすのが自分に課せられた使命だと考え、国際化 (留学生)、効率化 (キャッシュレス/ペーパーレス)、高齢化 (ヘルスケア) など地域の社会課題改善につながるように取り組みました。Iターン移住者の自分に思い切り仕事をさせてくれる環境があったので、走れましたね。ITを活用し、デジタル&アナログでまちの『稼ぐ力』を引き出すことに気を付けました。

### HUCの特徴を簡単に説明していただけますか

小売り、飲食、建設、金融機関、公共施設など約120カ所で利用できます。写真ギャラリーの有料利用、町内イベントへの参加、さらに健康診断の受診やボランティア活動でポイントが加算されるなど、多様な展開ができる点も特徴の一つです。同時に、町立の日本語学校の語学留学生約300人に、月8千円分の奨学金をポイントで提供しているんです。年間約3千万円が地元の商店街に落ちるとなると、町の経済活性化への貢献は決して小さくないはずです。観光誘致や関係人口の増加や親密化にも役立っています。また、東川町ではふるさと納税される人々を、まちづくりを応援し、まちに投資する「株主」と呼んでいます。その株主証としてHUCを発行し、町を訪れた際に町内で利用いただいています。その結果、8千人の町で町民の8割に加え、来町者やふるさと納税の株主など合計5万人以上が利用し、数億円の経済効果を生み出す地域エコシステムになりました。

## 注力されているHIDERAについて教えてください

北海道イノベティブ・デザイン経営研究協議会、HIDERAは互学互修の研究であり、教育。そして次世代を創るための土台づくり。小さなことでも今やるべきことを実現していこうとする人たちと共に未来を支えていく団体です。クリエイティブでイノベーションを探る社会人が集まってきています。地域も立場も専門も違う人たちが集うことで、良い意味で化学反応が起きているのがおもしろいです。

大学・高専、公設試験研究機関による共同研究や行政機関や自治体の補助金などを駆使し、経営者は既存の事業を維持しながら新事業を軌道に乗せ、関連会社として創業していく。私たちの取り組みには「産学官」に加え、地域金融機関（地銀、信金、信組）が関わっていることもありがたいことです。そうした取り組みを行うプラットフォームとしての場であり、触媒であり、エンジンでもあるのがHIDERAです。共同発起人である3人（浜田良樹、杉本剛、私）は業務を分担し、本業と同等の力を注ぎ取り組んでいます。ふるさと、北海道を豊かにするためには、企業が元気になることが第一。その結果、地域も必ず元気になると信じています。

## 「地域リノベーション協同組合」メンバーと聞きました

全国各地で地域創生に真剣に取り組む仲間60人ほど（20代から60代）とオンライン、時にはリアルで月に2、3度学びあい、課題解決や、新規プロジェクトに取り組んでいます。私は昨年9月にメンバーになりました。日本の未来を真剣に考える大義を持ったリーダーたちに共感し、彼らが掲げるビジョンを実現することが自分がすべきことと考えています。HIDERAと地域リノベーション協同組合のメンバーをつなぐセミナーを6月に企画し東川から発信しました。行動する、つなげることは楽しく自分の大切な“志事”です。



HIDERA共同設立者の浜田良樹さんと定居さん（右側）

## 多様な仕事はどんな割り振りで進めていますか

現在の仕事の比率は、HUC、HIDERA、地域リノベーション協同組合などのまちづくりや人材育成（キャリアデザイン）事業が4割、米国のベンチャー企業におけるリモートCFO業務が3割、来年出版予定のビジネス書の執筆が3割。朝7時から夜11時までを早朝はカリフォルニア、昼間は日本、夕方はベルギーとエリア別に分けています。札幌や東京への移動が現在ほぼなくなり、東川町の豊かな環境の中で、毎日がワーケーションといってもいいかもしれません。

ユネスコデザイン都市（旭川市）推進、2050年の北海道に向けた議論など未来に向けての仕事も大切です。高校大学とラグビーをしていましたので、1人ONETEAMとして、最大15をこなせるポジションと決め、日々のテーマに全力で活動しています。

（2021年9月取材）

## インタビュー後記

東川に移住を決めたポイントは、町ですれ違う小学生たちが全員「こんにちは」と大きな声で挨拶してくれ、それにノックアウトされると話す定居さん。町のどこにいても旭岳が見られる。ほぼ毎日満天の星に包まれ、地下水で暮らせ、まさに水が合うそう。この6年でずいぶん元気になったとのことでした。

かとう けいこ（株）まちづくり観光デザインセンター代表